

令和2年度第1回岐阜県環境審議会廃棄物・リサイクル部会 議事録

1 日時

令和2年7月13日(月) 14:00～16:11

2 場所

岐阜県議会棟 東棟3階 執行部控室

3 出席者

守富部会長、清水委員、田内委員、田中委員、新川委員、山崎委員、
新藤委員(代理:環境・リサイクル課長)、秀田委員

4 欠席者

柏田委員、中谷委員、矢野委員

5 事務局

井戸廃棄物対策課長、中垣内不法投棄監視監、伊藤一般廃棄物係長、
神谷産業廃棄物係長心得、垣本監視指導係長、高橋資源循環推進係長、西本

6 会議の概要

発言者	内容
守富部会長	出席予定委員が参集されたため、定刻に先立って開会し、次の順により、あいさつが行われた。 ○環境生活部長あいさつ(略) ○部会長あいさつ(略)
事務局(高橋資源循環推進係長)	○会議の成立について では、はじめに本会議の成立について事務局から報告をお願いします。
事務局(高橋資源循環推進係長)	本審議会廃棄物・リサイクル部会が有効に成立するためには、岐阜県環境審議会条例第5条第2項の規定により、委員の半数以上の出席が必要とされています。 委員12名で、現時点で8名の出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。
守富部会長	○議事録署名委員の指名 ただいま、事務局から報告がありましたとおり、本日の部会は有効に成立しておりますので、会議を進めさせていただきます。 次に、会議の議事録署名者を指名させていただきます。 本会議の議事録署名者として、清水委員と田内委員を指名させていただきますので、よろしく願いいたします。

	<p style="text-align: center;">1 岐阜県における廃棄物の現状と課題について</p>
<p>守富部会長</p>	<p>では議題1、岐阜県における廃棄物の現状と課題についてです。 令和2年3月19日付環境審議会において諮問があり、廃棄物・リサイクル部会に付託されました「第3次岐阜県廃棄物処理計画」の審議に入りたいと思います。 では現状と課題について事務局の方から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物対策課長）</p>	<p><事務局説明 略></p>
<p>守富部会長</p>	<p>計画が策定されてから10年になりますが、目標値からは乖離があり、なかなか到達できないとの認識であるかと思えます。 現状認識ですので、質問、ご意見等があればどうぞ。</p>
<p>新藤委員 (代理：片桐課長)</p>	<p>関連する経済産業省の動きとして、ご紹介をしたいと思います。 今年、5月22日に「循環経済ビジョン2020」を経済産業省で公表しております。今後の循環経済の基本的な方向性を提示するため、経済産業省に設置された研究会において、何回か検討を重ねてここに至ったというものです。 この資料1の中に国の動向という記載もありましたので、このような動きもあるということで、ご紹介させていただきました。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>そうですね。中間経済、サーキュラーエコノミーについては、ヨーロッパの方が主力で動いてきましたが、国内でも積極的なリサイクル等は必須になってくるので、それが経済に与える効果は、基本的にはいい方向に向かうということを信じてはいますが、促進するためにどういう手段があるのかということが審議になると思います。 岐阜県においても廃棄物を主力で見えています、やはりリサイクルというところも非常に重要になっておりまして、単に廃棄量が減りましたというだけでなく、再生利用や資源化量というところがリサイクルの結果となります。それを基本とした循環経済ビジョンを打ち上げたということですので、ぜひその辺もよく見ておいていただければと思います。他にございますか。</p>
<p>清水委員</p>	<p>達成が困難ということですが、現状認識ということで、産業界において、日本というのは、循環型社会とかSDGsでも色々言われておりますが、そのための再利用とか再生利用とか、後ほどプラスチックとかも出てきますが、色んな研究開発のような動きは、具体的なものがどんなふうであって、それがどう影響しているのかみたいなことがわかると嬉しいというふうに思うのですが。ちょっと余りにも大きいので。そういう報告みたいなものが、一つ二つあれば紹介してほしいのです</p>

<p>守富部会長</p>	<p>が。</p> <p>そうですね。事務局の方はいかがですか。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物 対策課長）</p>	<p>今後、多量排出事業者や、それぞれ主だった企業等にヒアリングを実施したいと考えておまして、今、委員からご提案がありました新しい技術、取組みについても、県内の状況が把握できることが望ましいと考えておりますので、今後、調整して参ります。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>ちょっと寂しい感じではありますが、よろしいでしょうか。</p> <p>基本的には資源化量や廃棄物っていうのは重量でみるものですから、やはりレジ袋とかを見ても非常に軽いので、重量ベースで見ると非常に割合としては、レジ袋をなくしました、リサイクルしましたとて言っても、その量や重量で見るとあんまり大きくなくて、むしろ、がれき、例えば、建設業等では結構効いてきまして、建設業の発生量自身は減っていますが、最終処分量は増えているということで、量的にはどうしても効いてきてしまうのかなと思います。実際に最終処分ではなくて、がれきをどうリサイクルするのかという話になると、なかなかそこも難しいところがあるのかなと思います。むしろ、がれきやコンクリートなどでもリサイクルするような取組みというのは、結構今もされてると思いますが、まだ必ずしも量的なものとしては、あまり行き渡ってないのかなと。</p> <p>今後、その辺が普及して、技術的にも量的にも増えてれば、最終処分量が減るのかなという期待感があります。</p>
<p>清水委員</p>	<p>もう一ついいですか。昨今増えている災害時の廃棄物ですが、そういうものも一緒にカウントされているのでしょうか。量として。</p>
<p>事務局（資源循環推 進係 西本）</p>	<p>災害廃棄物については、一般廃棄物の扱いになっておりますが、量については今数字を持ち合わせておりませんので回答いたしかねるところです。</p>
<p>清水委員</p>	<p>量については、別でカウントされているのでしょうか。</p>
<p>事務局（伊藤課長補 佐兼一般廃棄物係 長）</p>	<p>災害廃棄物については、先ほど説明があったように一般廃棄物の分類に入りますが、今回の統計については、災害廃棄物と通常の生活ごみとか事業者が出す一般廃棄物とは区分して集計しておりますので、このデータの中では除外してあります。そうしないと、災害が起こった時だけ一般廃棄物の量が増えてしまいますので。集計上は別にしてありますので、この現状の量は、災害廃棄物は含まれていないものとなります。</p>
<p>清水委員</p>	<p>含まれていないのですね。はい。わかりました。</p>

<p>守富部会長</p>	<p>しかしながら、今回もそうですが、この大雨等で年に1回とか、毎年となってきていますが、洪水とか大雨とか、プラス地震がもし発生した場合、相当量出るのも確かです。そういうところも今回国の動向の方にはあまり入ってないのですが、やはりこのウイルス対策と災害対策というのは、今後の10年はどういうふうに入れ込んでいくかは私も案があるわけではないですが、少し横目で見えていなくてはならないかなと。</p> <p>他、よろしいでしょうか。またあれば、次でも結構ですのでご意見いただければと思います。</p> <p>それでは、2番目の計画の目標設定、まず、減量化について事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物対策課長）</p>	<p style="text-align: center;">2 計画の目標の設定について</p> <p style="text-align: center;">(1) 減量化の目標設定について</p> <p style="text-align: center;">＜事務局説明 略＞</p>
<p>守富部会長</p>	<p>難しいところで、令和2年の目標がなかなか達成していない中で、10年後の目標をどう設定するかですが。</p> <p>その前に国の方の、例えば令和2年の国が立てた目標は、それなりに全国としては目標値に向かってきているのですか。排出量も資源化量も。達成が難しいということは資料でわかりますが。全国レベルで言うと、そこは国としても目標には到達していないのか、要するに、他府県ではきちんとできているのに、岐阜県だけできていないのか。そのうえで、さらに10年後、達成できないのをベースに国を考慮してやってしまうと、無駄とは言いませんが、絵に描いた餅のような目標値を掲げてもしようがないような気がするのですが。</p> <p>国の方は達成してますと、だから国のは守りましょうと、国のはできない目標値ではないですよということであれば、岐阜県もそれに準じて、国の目標値を考慮しましょうということであれば分かるのですが。国の方が到達していないのであれば、無理なことを言っているという話ではないでしょうか。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物対策課長）</p>	<p>岐阜県の1人1日あたりの排出量は良い方から11番目でございます。全国からみると頑張っている方と認識しております。しかしながら、この5年間の全国のそれぞれの県がどれくらい減少しているのか、あるいは増加しているのかは個別に検討はしていません。</p> <p>全国での岐阜県での位置づけが単純に11位なのかというご指摘でもあるかと思っておりますので、その点につきましては、次回の部会までに資料を整理しまして改めて説明させていただきたいと思っております。</p>

<p>守富部会長</p>	<p>11番目というのは、いつの話ですか。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物 対策課長）</p>	<p>平成30年度の実績です。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>人口の減少ですが、全国のトレンド、岐阜県のトレンド、私は高山市ですが、高山市のトレンドは一緒なんです。今年6月の人口でみますと197万8,463人、1年前は199万1,390人、もう1年前になると200万ちょっとなんです。問題は、1年で毎月の減少人数が、今年に入って1,000人ずつに減っていて、去年は、500人ずつ、その前は250人ずつなんです。何が言いたいかというと、こういうグラフの中に人口のトレンドをいれるべきです。自ずと目標のトレンドが見えてくるはずなんです。自然減少は間違いないですが、目標を達成したとかいいレベルかとかが曖昧になると思いますので、必ずこの指標を、グラフの中に明確に出ますので、年ごとにどの程度のカーブが描かれているのか、減少率になっているのか計算するのです。先ほどのように、人口減少は今年1,000人ずつ、去年は500人ずつ、急激に急速に減っている。じゃあ何ができるのかと。こういうことを考慮すべきです。そういう大前提の中で議論すべきです。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物 対策課長）</p>	<p>一つよろしいですか。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>岐阜県の将来人口につきましては、推移が予測されたものがございまして、改めて紹介をさせていただきますと、2025年、令和でございますと7年になりますが、189万1,833人です。それから2030年につきましては、これは令和12年ですが、180万2,139人ということで、この先ですね、大体十年間で10万人ぐらい減少していくといった推計がなされております。そうしますと、人口減少のみで減少している部分がありつつも、逆に1人当たりの排出量はどうかというところも、これからライフスタイルが様々な理由で変わって途中で、具体的数値として現せるか分かりませんが、そういった点も考慮しつつ、見ていく必要があるということは委員ご指摘の通りであると認識しております。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>そうですね。資料を事前に送っていただいたので、後半にその話が出ると思いますが、現在のところ、今の時点では、グラフにそれを現わしてほしいというだけです。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>人口減少等は当然といたしますか、今後、さらに下がってくるだろうということは皆さん認識しておられると思いますが、先ほどの12番目というのは、一人あたりですか。</p>

事務局（井戸廃棄物対策課長）	はい。一人当たりの排出量です。
守富部会長	<p>そういう意味では、人口を考慮した上で、平成30年ではありますが、確かに人口が減っている中で、一人頭でどのくらい減ったのかというところで計算してかないと、その辺がぼけてしまいますので、人口のトレンドと合わせてごみ排出量を見ていくことは重要なポイントかなと思います。他にご意見はありますか。</p> <p>ここは重要なところで、何をもちって10年後の目標値とするのかというところですので、ご意見いただければ。</p> <p>前回の令和2年の目標値を決めるときは同じ手法だったのですか。</p>
事務局（井戸廃棄物対策課長）	<p>令和2年度の目標値については手法としては同じ手法ですが、国の方から「何年度に比して何%減」という示され方をしておりますので、今回とは計算方法は異なっております。</p>
守富部会長	<p>ですので、岐阜県の過去の実績に比べて、何%減にするかというところで、国に対する割合をそのまま採用しております。</p>
事務局（井戸廃棄物対策課長）	<p>岐阜県の実績は踏まえつつ、全国人口割でということですか。</p>
守富部会長	<p>国が設定している削減割合を採用しています。</p>
事務局（井戸廃棄物対策課長）	<p>数値を置くとすると、3ページの令和12年度目標値になるということですね。結構厳しいのかなという気はするのですが。</p>
守富部会長	<p>産廃の方はともかくとして、一廃の方は結構厳しい値かなという気がしますけどね。</p>
清水委員	<p>今年度で達成されてない原因が何なのかという解明がされていない中で、同じ数字を持ってくるというのは…</p>
守富部会長	<p>ただ、私としては、数字を見ていてもわかりにくいのです。個別の取組みに関する目標をどうしていくかということ、一県民としては、それがどうだったのかという評価が大事になってくるのではないかなと。</p>
事務局（井戸廃棄物対策課長）	<p>事務局としては、原因というか、次の10年間に向けた施策というのは一応検討されていますか。</p> <p>数値は、確かに実績値ベースで国のものを当てはめれば出てくるのですが、分析というか、どこをどう変えていけば減るのか、具体的な施策がないと、自然のままこの目標値を達成するのは難しいものがあるかなと。これを行ったうえでこの目標にしましょうというなら分かりますが、確かに、数値だけで言われると、具体的には「じゃあみなさん頑張りましょう」という話になってしまうので。</p>

事務局（井戸廃棄物 対策課長）	<p>清水委員、部会長のご指摘は十分に理解しております。一方で、個別の施策について、どれだけ削減が見込まれるかという点の算出につきましては、ベースになるデータがとられていないものもございまして、後ほど施策の方向性のところで説明させていただきますが、今の排出量がどんなものがどれだけ出ているかといったデータがなかなか無く、今回は提供された市町村の実績から推計してみたというところでございます。</p> <p>県におきましても、可燃ごみとされるものにつきまして、予算を組んで開封調査を実施しております。先日、高山市でやっと調査できたところ。新型コロナウイルスの影響もございまして、なかなか一般廃棄物の開封調査というのも神経を使うところでして、今後各務原市でも調査を実施する予定ですが、そういった結果を踏まえつつ算出していくことができるのではないかと考えております。</p>
守富部会長	<p>今回たたき台というか、骨子案として単純に国の方針を考慮した数値であって、具体的な施策であるとか、最終的な第3次計画に盛り込むときには、もう少し議論してから出てくる話かなと思いますが、今日のところは数値としてはこういう結果であるというところをご紹介いただいたということかと思えます。最後にご一考いただくとして、次に参ります。</p> <p><u>(2) 新たな項目の目標設定について</u></p>
事務局（井戸廃棄物 対策課長）	<p><事務局説明（資料3-2～3-4について 略）></p>
守富部会長	<p>資料3-2から3-4につきましては、数値目標として今後検討していく中身になると思います。</p> <p>資料3-1の一廃及び産廃の数値目標と、資料3-2から3-4の中身として目標設定をするかしないかという説明を事務局からいただきました。</p> <p>全体を含めて、本日の議題としましては、事務局の示した目標数値について、今後、議論の中で、上げ下げはあるかもしれませんが、これでいきたいということでご意見いただければと思います。資料3-1についてですね。</p> <p>それから資料3-2、3、4については、設定した方が良い、あるいは、これは難しいんじゃないかというようなことで、ご意見いただければと思いますが、田内委員いかがでしょうか。</p>
田内委員	<p>はい。私、会社の方でプラスチックを使っておりまして、生産の工程で使うのですが、プラスチックが3年前までは有価物で売却をしていて、売ればお金をもらえたのですが、今は廃棄するとお金を払わな</p>

	<p>ければいけなくなったわけです。有価物のうち廃棄物にカウントされなかったのですが、お金を払って処分すると廃棄物にカウントされるようになったわけです。やはり、こういうプラスチックというのも廃棄物としてカウントされているのでしょうか。</p>
事務局（井戸廃棄物対策課長）	<p>はい。金属と同じように、発生量には入りますが有価物を取り除いたものが排出量になります。</p>
田内委員	<p>なるほど。資料3-3にプラスチックの目標が設定されていますが、実際、産業の方が排出量が多いと思うので、そういう点ではピンとこなかったのですが、減らすとか有効利用という意味では、取組みは確立されていない部分がありますので、会社としてもなんとかしていかなければいけないということで、当社として動いているということは言えます。ゼロだったものが廃棄量によっては数千万円になりますので、全社挙げて取組みをやっているわけです。</p>
守富部会長	<p>ここで示されている目標の中で言いますと。</p>
田内委員	<p>リデュース・リユース・リサイクルをするとすると、外に出さずに中で製品化するか原料として使用することを考えて取組んでいるところですね。容器とか包装とはまた違うのですが。</p>
守富部会長	<p>目標設定を盛り込むということに対しては、いかがでしょうか。個別の取組みを盛り込んで具体的な数値は設定しない方がよいという感じでしょうか。</p>
田内委員	<p>なかなか目標設定があっても達成できないと思うので、県内のプラスチックを扱う業界と一緒に協議しながら進めれば何かできるかもしれないですね。</p>
守富部会長	<p>業界でアイデアをとということですね。田中委員はいかがですか。</p>
田中委員	<p>リユースとかリデュースとかどういう風にやっていくのかなという中で、目標数値を決めるのは難しいというふうに見ておりますが。</p>
守富部会長	<p>事務局から目標数値が示されましたが、この数値を進めていこうということですが、ちょっと無理があるような気はするのですが。新川先生はいかがですか。</p>
新川委員	<p>目標数値はこれでもいいかと思うのですが、例えば1日1人当たりのごみの排出量が現状と変わらないとなると、人口の減少と関わることではあるのですが、人口の構成も関わってくるのかなと思います。高齢化とか、やり始めたら大変だと思うのですが、ごみの出方は違って</p>

<p>守富部会長</p>	<p>くるのかなと。ごみを捨てる際に見ていると、高齢者の方はごみが減るどころか反対に増えているのかなと感じていて、なかなか減らしましょうというの難しいかとは思いますが、440グラムというのはちょっとウーンと思いますが、現状維持から少しずつでも減量していく目標値がいいのかなと思います。</p> <p>高齢化とごみの排出量の増加というのは何か関係があるのでしょうか。オムツや総菜の容器とか、増えますよね。</p>
<p>新川委員</p>	<p>実際自分がコンビニでご飯を済ませると、こんなにもごみが増えるのかという実感をしたということがありますので、便利なことを考えると、関係があるのかなと思いました。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>人口だけではなく、人口構成を考慮するということでした。山崎委員はいかがですか。</p>
<p>山崎委員</p>	<p>私は、こんなことを思っていて、環境問題というと、みんな問題視する方向で頭を絞りますが、どうかなと思っけていまして。</p> <p>森林環境税の審議の時もそうでしたが、みんな悲観的な話をするんです。少子高齢化が大前提で。1人当たりの占有率を考えると、すごく豊かな自然共有になるのだということを話したのですが。</p> <p>それと一緒に、ごみを減らすというのは簡単に言うと数字だけのことなので、どんな数字でもいいですが、どうやってやるとみんな悲観的じゃない活動になるかというのが大事だと思います。</p> <p>具体例で話しますと、3年半、月曜日と木曜日に燃えるゴミをごみステーションでウォッチしましたが、袋の数を数えて掲示するだけで2割減ったんですよ。減らしましょうとは一切言わないですが2割減って維持しています。じゃあもっと減らす目標を立てるかということではないと思うのです。</p> <p>何が言いたいかというと、実態を知ることが非常に重要だということが実感として分かったのです。それと同じように、指標は出してもらっていいですが、それを願わくば、毎月、2週間に1回、数字を見せてあげることが、みなさんの協力をぐっと広げるということは間違いありません。具体的に動くということが大事です。</p> <p>悲観論で話をしているとつまらないものになってしまうので、こういうことができそうだという、前向きな会話にしてもらいたいと思います。</p>
<p>清水委員</p>	<p>ここで一ついいでしょうか。全国の関連市町村に聞いたことですが、レジ袋有料化の時に、スーパーでもレジ袋の有無を示すカードを使っていますが、そのカードに要否だけ入れたものと、地球環境に関する絵柄を書いたものと2種類に分けたら、明らかに後者のカードを取り入れた方の住民が、自発的にマイバック持参などの行動に移られたと</p>

	<p>いうことでした。</p> <p>私は、この資料3-3にありますワンウェイプラスチックの目標設定をしないということですが、これは設定した方がいいのではないかと思います。その設定の仕方に、どんな取組みをしたらどんな結果になったかということの数値だけじゃなくて、そういうことを吸い上げて広めていくやり方、県内での良い取組みの数値目標の出し方でもいいのではないかと。もっと県民のアイデアを吸い上げる、引き出せるような目標設定というか施策があるといいなと思います。</p> <p>それから、5番の県内の全市町村で可燃ごみ袋にバイオマスプラスチックや生分解性を導入するということですが、10年先の取組みであれば、もうちょっと高い目標があってもいいかなと思います。</p>
守富部会長	<p>いずれにしても、自発的に目に見える格好の、そんなにお金のかかる施策じゃなくて、できるところから、山崎委員の言われるように楽しくできる参加型の施策を打っていくことによって目標を達成するという設定の仕方がよいと。</p>
山崎委員	<p>もう一ついいですか。目標の設定は年単位だと具体的ではないのです。週単位がいいのです。具体策を県民に示すなら週報が一番いいです。</p>
守富部会長	<p>ありがとうございました。片桐委員、いかがですか。</p>
新藤委員 (代理：片桐課長)	<p>はい。部会長もご指摘でしたが、資料3-1の2ページなのですが、新目標値の令和7年度の設定に関して、国の参考数値から案分等して数値を出したということですが、1ページ目の一般廃棄物排出量のトレンドを見ていきますと、ずっと下がってきていますが、平成27年度以降、下げ止まってきており、平成30年度の実績値は691となっています。令和7年度の新目標値が、608となっていますが、トレンドから見ると、何か新たな取り組みなどを行わないと実現は難しいように感じます。再生利用率や最終処分量についても同様のことが言えるのではないかと。これまでの実績値を踏まえつつ、どのようにして目標値を目指すのかについて、実績値の要因分析や今後の取組みといった観点からわかりやすい説明ができることが望ましいと思います。</p>
秀田委員	<p>国の目標を採用されているということですが、国の目標は、「こういう社会を実現するためには、これくらいの数値を設定する必要がある」という具体的な理由が示されていればいいのですが、残念ながら国としてもそこまで立派な目標とはなっておらず、「現状より減らしていこう、これくらいであれば減らせる」という考えで数値を示している場合も多いので、これ以上のことを岐阜県さんに求めるのは心苦しいのですが、国よりはより市民に近い位置にいる行政機関という立場から</p>

	<p>考えますと、清水委員や山崎委員が言われるように、県民のみなさんが理解しやすいものにできるだけしていく必要があるかと思います。</p> <p>目標とする数値は、一定の根拠を以て示されているので、これはこれとして設定することとしていいと思いますが、県民に対するより分かりやすい説明をしていくことはやはり必要ではないかと思います。それをこの計画の中で示すのか、それとも、もう一段ブレイクダウンした資料を別途県民の皆さんには示していくのか、どちらでも構わないと思いますが。</p> <p>排出する人たちの全面的な協力を得ないと数値というのは達成できない訳ですから、目標達成に至る具体的な道筋を示すとともに、何をどれくらい頑張ればその数値を達成できるのかを県民に分かりやすいように示すことは必要じゃないかなと思います。</p> <p>ぜひ市民に近い立ち位置で、そういった試みをしていただければと思います。</p>
山崎委員	<p>こんな例があるのですが、赤字の事業者がいて赤字の程度を示してやると良くなるということがあります。毎度だめではなく、基準を100とすると98になっていると言うと努力しがいがありますよね。そういうことが大事だと思います。より一層具体的数字を変えるにはどうやるかという週報でみるのが一番です。</p>
守富部会長	<p>ありがとうございました。</p>
清水委員	<p>よろしいですか。県民一人一人がやることはまだたくさんあると思うのですが、例えば再利用するためにプラスチック製品を買わないようにするとか缶は洗って出すとかですね、でもこの廃棄物に関しては各市町村の、行政の取組みというのがすごく関わってくると思うんです。というのは、各市町村ごとでやってしまっているのか、もっと広域で、焼却炉の建設にしても、最終処分場にしても、もっと広域で、県が中心になってどのようにしたら県内全体として目標達成できるか考えていけるような、行政側への働きかけというのか。</p> <p>例えば、岐阜市はごみ袋は有料化されていません。真っ黒でなければ袋は何でもいいのですが、なので、何でも入っているんです。プラスチックや瓶や缶もあるようですが、つまり、意識が高まっていないんです。減量しなければいけない、再利用しなければいけないという意識がなかなか市民にできていかないんです。ましてや、どういうものがどれだけ出ているかという分別の数値もつかまれてないと思うんです。それだったら、課題とか目標とかをどういう風にやろうかと、そういう次の手段が絶対出てこないはずですので、県としては各行政主体にどういう取組みをして、県民の減量化やいろんなことに対する意識を高めて、減量化にみんなで取り組んでいけるのか、それから産業界でも同じだと思うのですが、どんどん情勢は変わっていて、先ほどプラスチック（の扱い）が変わったというのは、中国が輸入をやめ</p>

	<p>たということかと思いますが、世界の動きをみると全然変わってくるので、産業界の中でも、もっと再利用の方法はないのか、異業種の中での取組みでうまくいくことがあったりとか、例えば、汚泥をセメント化したというのを聞いたことがあるんですが、建築廃材をもっと再利用できないだろうかとか、異業種で話し合ってくとできることもあるんじゃないかと、ぜひそうしていかないと、各それぞれが考えていたのでは絶対減らないので、県が主体となって働きかけて、ネットワークをもったり啓発する機会や流れをつくっていくことをやっていかないと目標は達成できないのではないかと思います。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>一般廃棄物関係は、各市町村さんの方で回収ですが、県の方の目標値は目標値として、それをどうやって受け入れ先に実行してもらうかということもありますし、産廃でいえば、県の管轄ではありますが、先ほど出たように、業界等を含めてアイデアを出しつつ、どういう施策が業界としていいのかということも、県が目標を持ったのであれば、そこに向けて具体的に検討していただく、あるいは市町村もそうですが、一緒に検討していただく、この目標を置いたけれども具体的にどうやっていくかは県の中だけで考えていてもやれることとやれないことがあるので、やはり一緒に考えていくということが重要かと思えます。そのうえで、県民全体に分かりやすく伝えるために、意識啓発できる仕組みをつくっていくということかなと思えます。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物対策課長）</p>	<p>それでは、資料3-1にある数値目標につきましても、具体的な取組みとのつながりが必要とのご意見を頂戴しましたので、また次回の時に改めて、そこまでにどれだけの情報がまとめられるか分かりませんが、もう一度諮らせていただく形にしたいと思います。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>個人的には、みなさん、数値についてはそんなに反対されていないと思っていて、国の数値目標を用いて按分したらこうなるというものでして、ただ達成できるかということになると、やはり施策と関係してくるところなので、そこは見えるようにしてから出された方がいいのではないかというご意見かと思うんですね。ですから、一応たたき台として数値目標は置いたとして、次回出される場合はそういうところを考慮すると、数値が変わるとは私は思えないのですが、国の出した数値に基づいた目標値は仮置きしつつ、次回みなさんのご意見をいただいたときに、こういう決め方がいいのではないかというご意見が出れば変えればいいのかと思うのですが。とりあえずは、この数値で施策を検討していくということかなと思えます。</p> <p>それから資料3-2, 3, 4については、設定する、しないは、いただいたご意見を踏まえて整理していただいて、設定する場合はどういう基準を設けるということもあるでしょうから、その辺も少し検討したうえで、大筋はお認めいただいたのかと思いますが、部分的にここは変えた方がいいというご意見をいただいていますので、そういうと</p>

事務局（井戸廃棄物 対策課長）	<p>ころに配慮したうえで、次回に再度ご議論いただければというふうに 思います。</p> <p>では3番目の議論に移りたいと思います。</p>
守富部会長	<p style="text-align: center;">3 第3次岐阜県廃棄物処理計画策定の方向性について</p> <p><事務局説明 略></p> <p>今までの議論を踏まえたうえで、施策の論点整理ということで、こ こまでに色々と意見はいただきましたが、ここに挙げますように、プ ラスチックごみの発生抑制と削減に向けた取組み、2番目は食品廃棄 物、3番目は紙類、確かに、岐阜市さんを含め紙類の発生量が多いよ うなこともあります。それから4番目に産廃発生抑制に向けた業種 ごとの特徴に応じた取組み、それから5番目に県としての主体的取組 み、県として行うべき取組みについて説明資料にかいてある通りです けれども、時間が限られてはいますが、思いつくところで構いません ので、今アイデアがあれば、あるいは、実効性についてご意見があ ればお願いします。</p>
山崎委員	<p>新型コロナウイルスのことで、東京、愛知県、岐阜県がどうだと言 われていますが、そこに出てくる話題には経路が分からないというこ とが出てくる。廃棄物の話も、ものすごく出てくると思います。私は 限られた地域で廃棄物の面倒を見るというのが正しいと思います。</p> <p>今この計画では出てきたものをどうしようということですが、何か ネーミングが必要かと思いますが、例えば、岐阜県廃棄物源流プロジェ クト等、どこか地域を対象として、食品ロスやプラスチック、農産物、 建築廃材でもいいのですが、最初の物量が見えて、それが最終的にど んなふうになっていくのかというのを、一つモデルを描いたらどうか と思います。あまり大きなことをやると具体性に欠けるし、全体の量 というと具体策と合わなくなってくるので、元々のものが、ここから 来たものが廃棄物になっていることが分かるようにしたらどうかと思 います。それに関わる企業の方の数なり、県民がイメージしやすいよ うなものにしたらどうかと思います。</p> <p>コロナ対策もまた出たという報道なので、ウィズコロナ、ウィズ廃 棄物で、この現状で我々の世代がいかに工夫したかを残さなければな らないですね。なので、現状は現状でまず認めて、悲観論ではなく て、こんなことをやったら結果が出た、解決したといった事例が一個 できると次につながるの、ぜひそういうものを作ってほしい。</p>
新川委員	<p>まさしくその通りだと思うのですが、先ほど岐阜市さんは（指定の） ごみ袋がないよという話がありまして、隣の山県市さんは（指定の袋 が）あるんですけど、市町村によって違いがあると、学生さんなんか</p>

守富部会長	<p>は岐阜市へ来ると、何でも袋へいれちゃえばいいよという感じでやっているんです。市がいいって言ってるとなってしまうんですね。なので、市町村間の（分別レベルの）上下をならす方向に持って行って、同じようなところが増えてくると、岐阜県は岐阜県としてごみの量を少し減らしていけるのかなと思います。</p> <p>市町村間の違いを是正していくべきと。</p>
新川委員	<p>極端な話、よその市町村の人に「いいよ、岐阜市で捨ててあげるから」と言ったという話を聞いたことがあって、そういったことにならないようにある程度直して、後は、捨てた後に楽しく、どうしたら減らせるかというところを具体的に言ってもらって減らせるのかなと思います。実際、私自身、どうしたらごみを減らせるのかとごみを捨てる時に唾然となるのですが、あ、またごみが出たと。いろいろと紙を切って捨ててみたりとかはするのですが。</p>
清水委員	<p>コンビニ等でみると過剰包装というのが多いような気がしますが、もっと考える機会を増やさないといけないと思います。なかなか年間通じて、自分たちがどんなものを出しているかなどを知る機会がないです。環境マスターの話も出ましたが、元々SDGsの理念のもとでやるのですが、もっと市民が知る機会をもたないといけないなと思います。</p> <p>例えば、先ほどのごみの量を人の体に例えてみるとか、そういったところから、もっと企業に対して減量化運動を行ったり、県民が主体的に動けるような資料の見せ方と話し合える機会の提供をやっていけないのではと思いました。</p>
田中委員	<p>県民のみなさんにごみを減らしていくという意識がないと減ってこないと思いますし、意識を高めるためには、地域の調査、それこそ、食品調査だと1週間くらい自分がどれだけ排出したかとか状況調査してみると、改めて数字を知ることになって、減量に向けた意識が出てくるのではないかと思います。自宅のごみ調査を試みる機会を作るとか、それを市や県の中でどう施策につなげていくかは難しいかと思いますが、県から働きかけがあれば、意識づけにはなるかなと思います。</p>
守富部会長	<p>先ほど話にでましたモデル地域を作って協力してくれる人を集めるというのがありますが、具体的なデータを集めるという意味で、モデルの地区や人について、具体的な数値を、期間を決めてデータを取れるようなやり方で、現状がみえるような調査をして、結果を周知していくという方法の提案であったかと思います。</p>
山崎委員	<p>いいでしょうか。今、災害なんです。高山は。災害支援に行くと気づくのですが、川の氾濫や地滑りなど、自然の中で浄化されるレベル</p>

<p>秀田委員</p>	<p>があることに気づきます。廃棄物も、私が生きているうちに何万トン出るといふ数字を示しても意味がないと思います。もっと言うと年々、月々、日々、これ以上多くはならないよう維持しようとしているわけで、このレベルは維持しようというボーダーが必要だということを災害支援で感じるのです。</p> <p>ごみ問題をはじめ環境問題全般そうですが、市民の皆さんに自分事として捉えていただかないと、行動に結びつかないし解決にも至りません。如何に自分事として捉えていただく工夫をするかに尽きるかなと思います。一つが「見える化」ですね。水が排水口から流れていくとその後が見えないので誰も関心を持たないのと同じで、自分が出したごみが最後どのように処理されているかが見えないと、減らそうという関心も行動も起こってこないわけですね。そういうところを細かく見えやすくしていく必要があるのかなと。紙もきちんと分別すればちゃんとリサイクルされるのに燃えるごみに出されてしまったり、プラスチックも、ペットボトルなどはみなさんリサイクルに出されますが、汚れたプラスチックを汚れたまま出すと結局は燃やされてしまったりリサイクルにならない場合もあるのです。そういうところを意外と市民の皆さんは知らない場合があって、市民の皆さんにも責任を持ってもらうという意味でも、自分が出したごみを最後誰がどのように始末しているかを分かりやすく知らせることが大切です。例えば、これだけごみを減らせれば、これだけごみ処理にかかっていた税金を減らして、他へ回せますよとか、とにかく具体的に目に見える数字や絵面とかで示していかなければいけないのかなと思います。</p>
<p>守富部会長</p>	<p>全体のご意見としては、個人個人が排出しているもの、組成、産廃でいえば工場が出しているものになりますが、その排出先については、従前からマテリアル供給が全体の流れがどうなっているが知ることは重要とされていますが、そういう資料が作成できるレベルあるいは意識までいける個人レベルの出し方だとかこういう出し方になっている。県内だと岐阜市さんはこうとか海津市さんはこうとか。県としても、表彰といいますか、成功事例を示すことも大切なかなと思います。</p> <p>時間が16時までなので、またご意見があれば、次回までに事務局か私の方へ頂戴できればと思います。</p> <p>では、最後にその他ということで、今後の進め方について事務局からお願いします。</p>
<p>事務局（井戸廃棄物対策課長）</p>	<p><事務局説明 略></p>
<p>守富部会長</p>	<p>今回は、コロナの影響がなければ、9月か10月頃ということですが、今回は骨子案が出てきましたけど、今回は最終案に近づく方向で準備していきたいと思いますので、みなさんよろしくお願いたし</p>

事務局（高橋資源循環推進係長）	<p>ます。 事務局に進行をお返しします。</p> <p>守富部会長、どうもありがとうございました。 委員の皆様には、ご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございました。</p> <p>以上をもちまして、「令和2年度第1回岐阜県環境審議会廃棄物・リサイクル部会」を閉会とさせていただきます。 ありがとうございました。</p>
-----------------	--